

## 06 社会学専攻

## Sociology

### (1) 修士課程

#### ● 目的

社会学専攻は、社会学と社会福祉学の両分野において、社会を客観的、科学的に分析し、かつ、社会的諸問題に対処できる高度な能力を体得し、より豊かで専門的な学識を専門的職業に活かすことのできる人材を育成することを目的とする。

#### ● 学位授与の方針

以下すべての条件を満たした者に対して、修士（社会学）の学位を授与する。

1. 所定の年限以上在籍し、所定の単位を修得している。
2. 社会学と社会福祉学の両分野において、高度な専門的知識と研究技法を駆使し、社会的諸問題に対する深い分析と解釈の能力及び専門的職業に従事する能力を身につけている。
3. 必要な研究指導を受けた上で、「2」で求められた能力の達成度を示した修士論文を提出し、審査に合格している。

#### ● 教育課程の編成・実施方針

社会を客観的・科学的に分析し、社会的諸問題に対処できる高度な能力を体得し、より豊かで、専門的な学識を専門的職業に活かせるよう、社会学と社会福祉学が二本柱となってカリキュラムを編成している。開講科目は社会学、社会福祉学の理論および応用を学び、研究できるよう、できるだけ幅広くかつ豊富にそろえている。また、専門分野の講義と演習とをセットにし、計画的かつ発展的な学習ができるように工夫をしている。日本人学生のみならず諸外国からの留学生を含む広範な学生を対象にし、専門分野別に指導教員の下で、少人数で行き届いた緻密な教育・研究指導を行っている。そのためにも、大学院受験の段階から指導教員を指定するシステムにしている。

入学後は、TA制度ならびに院生会学術雑誌「ソキエタス」投稿を通して、教育現場での経験と研究能力の向上を図っている。

1997（平成9）年から首都圏大学院社会学専攻の間で単位互換制度が発足し、本学も含め社会学分野の大学院が単位互換制度に多数加盟している。（P.238参照）

#### ● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

#### ● 学位論文の審査基準

論文審査における基本的な審査項目は以下の通りである。

1. 研究主題の設定理由・目的の明確性
2. 研究の社会的意義・貢献性
3. 研究の主体性・独自性
4. 研究方法論の適切性・妥当性
5. 引用された文献・資料の十分性・適切性・妥当性
6. 結果考察の妥当性
7. 論旨の一貫性・連続性・論理性

修士の学位は、上記審査項目に関して一定の評価が得られ、当該専門分野における先行研究の成果を十分に踏まえた上で、独自の研究成果が学術論文の形式でまとめられている場合に授与される。

## ● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、他専攻の講義科目の中から4単位に限り履修することができる。なお、他専攻履修をする場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 指導教員が必要と認めた場合は、交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）〈P.12〉」の授業科目を履修することができる。
4. 他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
5. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。

## ● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
文化社会学特講	講義	4	専任・博（社）	片岡 栄美	
文化社会学演習	演習	4	専任・博（社）	片岡 栄美	
産業社会学特講	講義	4	専任・博（社）	山田 信行	
産業社会学演習	演習	4	専任・博（社）	山田 信行	
地域社会学特講	講義	4	専任・博（教育）	濱田 国佑	
地域社会学演習	演習	4	専任・博（教育）	濱田 国佑	
家族社会学特講	講義	4	専任	松信 ひろみ	
家族社会学演習	演習	4	専任	松信 ひろみ	
情報社会学特講Ⅰ	講義	4	専任・博（社会情報）	深澤 弘樹	（本年度休講：在外研究）
情報社会学演習Ⅰ	演習	4	専任・博（社会情報）	深澤 弘樹	（本年度休講：在外研究）
集合行動論特講	講義	4	専任・博（文）	李 妍焱	
集合行動論演習	演習	4	専任・博（文）	李 妍焱	
社会福祉学特講Ⅰ	講義	4	専任	伊藤 秀一	
社会福祉学演習Ⅰ	演習	4	専任	伊藤 秀一	
社会福祉学特講Ⅱ	講義	4	専任	長尾 譲治	
社会福祉学演習Ⅱ	演習	4	専任	長尾 譲治	
社会福祉学特講Ⅲ	講義	4	専任	桐原 宏行	
社会福祉学演習Ⅲ	演習	4	専任	桐原 宏行	
社会福祉学特講Ⅳ	講義	4	専任・社博	東條 光雅	
社会福祉学演習Ⅳ	演習	4	専任・社博	東條 光雅	
社会福祉学特講Ⅵ	講義	4	専任・博（人間科学）	荒井 浩道	
社会福祉学演習Ⅵ	演習	4	専任・博（人間科学）	荒井 浩道	
社会福祉学特講Ⅶ	講義	4	専任	佐藤 光正	
社会福祉学演習Ⅶ	演習	4	専任	佐藤 光正	
社会福祉学特講Ⅷ	講義	4	専任	川上 富雄	
社会福祉学演習Ⅷ	演習	4	専任	川上 富雄	

## ● 授業科目の概要

### ■ 文化社会学特講【講義】

#### 片岡 栄美

「教育と文化」に関する社会学研究をテーマとして取り上げる。主としてフランスの社会学者ブルデュー（P.Bourdieu）による文化資本論、文化的再生産論に焦点をあてる。この領域の基礎的理論から経験的应用研究の動向を学び、さらに社会関係資本の研究動向を把握し、教育の不平等や社会的な格差・不平等に対して、文化資本や社会関係資本がいかなる影響を与えているかを学ぶことで、各自の理論的・経験的な研究ができるように学習指導を行う。

## ■ 文化社会学演習【演習】

片岡 栄美

本演習では、各自の研究テーマに即して、文化と教育に関する社会学研究を深化させ、修士論文を執筆することを目的とする。文化社会学および教育社会学の文献購読を通じて、研究の理論的・方法論的な理解を深め、各自の修士論文の研究を完成させることを目的とした演習である。履修者は各自の調査計画に基づいて研究報告と文献購読の報告を行い、指導を受けることにより研究を深化させることができる。主に経験的な社会学調査研究の論文指導を行う。

## ■ 産業社会学特講【講義】

山田 信行

ミクロからマクロにいたる産業・労働に関する事象を、社会学のツールを用いて理論的・経験的に考察する。具体的には、雇用の意味とその具体的あり方、組織における労働、労使関係とその社会間比較、生産システムとその変容、転職と起業、ワーク・ライフ・バランス、サービス経済化と労働、あるいは資本・労働のグローバル化といった事象が検討の対象となる。こうした事象について、論理的に深く考察し、経験的データを的確に分析できる能力の養成を目標とする。

## ■ 産業社会学演習【演習】

山田 信行

産業・労働分野に関する専門的な文献の講読とそれをめぐる討論を通じて、この分野についての知見を深め、概念的・論理的思考を強化するとともに、参加者自らが企画した調査を通じてオリジナルなデータを入手・分析する訓練を行う。将来、参加者が自律した専門的な研究者になることを念頭に置いたインテンシブな訓練を行うことになる。最終的には、個々の参加者の研究関心に基づいて、高い水準の修士論文を執筆してもらうことを目標とする。

## ■ 地域社会学特講【講義】

濱田 国佑

本講義では、地域社会の変容に関する近年の理論的・実証的研究の動向を紹介するとともに、グローバル化や少子高齢化が進む現代の日本において、地域社会にどのような影響が生じているのかという点について考察を深める。とりわけ、地域社会を構成する多様なアクターの間の協働関係、あるいは緊張関係に焦点を当て、現代の日本社会における地域社会の構造を多面的に把握することを目的とする。また、受講生が、このような学習を通じて自らの問題関心を深化させ、主体的に分析・研究を進める能力が身につけられるよう指導を行う。

## ■ 地域社会学演習【演習】

濱田 国佑

地域社会学の分野における国内および海外の文献の購読を通じて、地域社会の諸問題を研究する際の基本的な分析視角を身につけるとともに、自らの問題関心・研究テーマについて、先行研究によって得られた知見と照らし合わせながら、その学問的な意味や位置付けを明確化させる。また、自らが社会調査を企画・実施し、調査結果の分析を通して、学術的な意義を持つオリジナルな研究を、自ら主体的に進めていくための能力を身につける。このような作業を通じて、最終的には、質の高い修士論文を完成させることを目標とする。

## ■ 家族社会学特講【講義】

松信 ひろみ

本講義では、ジェンダー的観点にたち、「ネットワーク論」や「ライフコース論」など家族社会学における重要な理論的視点を言いながら、現代家族にかかわる事象を考察していく。具体的に取り上げる事象は、夫婦の役割関係・勢力関係、離婚、子育て支援などである。それぞれの理論については、英米の古典的な研究の原典にもあたり、現代家族研究への応用について、近年の実証研究の事例も合わせて検討してみたい。

## ■ 家族社会学演習【演習】

松信 ひろみ

本演習では、学生の関心事を最大限に生かして、家族社会的なテーマに引き寄せ、修士論文に発展させていくためのサポートを行う。そのためには、まずは英米の論文も含めてできるだけ多くの関連論文を読みこなし、討論を重ねて、それらの論文から学ぶべき点は何か、どのような点を修士論文に応用することができるのかを検討する。その上で、実証的な調査研究についても指導し、修士論文執筆をすすめていく。

## ■ 集合行動論特講【講義】

李 妍焱

本講義は市民社会を研究対象とし、社会変動の仕組みを学ぶ。日本の市民社会と中国の市民社会を比較しながら、共通性とそれぞれの独自性を考え、その背景にある問題を探っていく。受講生には、市民社会の概念や歴史、理論的系譜を把握した上で、日本と中国における市民社会の展開の経緯を理解してもらいたい。その上で、両国における市民社会の特徴およびその背景としての社会的特徴について、各自の見解が述べられるようになってもらいたい。

## ■ 集合行動論演習【演習】

李 妍焱

受講生の問題関心に寄り添い、「下から社会を構築する力」に特に注目し、受講生が研究テーマを見出していくようにサポートする。その上で必要な文献サーベイ、調査研究の実施を指導し、受講者の研究能力の向上を追求しつつ、高水準の修士論文の作成を目指す。

## ■ 社会福祉学特講Ⅰ【講義】

伊藤 秀一

本講では公的扶助分野における諸問題を扱うことにするが、まずは公的扶助論の概要把握に努めたい。具体的には概念、広く社会保障制度体系における公的扶助制度の位置づけや役割・機能、歴史的展開過程等である。その後、法制度の理念と実態とのズレを中心として公的扶助の抱える問題点等に言及していくことにしたい。講義終了時点ではマスコミ等の取り上げる生活保護に関する記事について問題の取り上げ方をはじめ、その内容に対して批判的にコメントできるようになってほしい。

## ■ 社会福祉学演習Ⅰ【演習】

伊藤 秀一

公的扶助に関するテーマの修士論文の作成を目指すことになるが、研究の基礎となる先行研究のレビュー、研究目的・テーマの設定、研究計画書の立案等の検討を行うことから始めたい。修士論文の研究フレームを作成するうえで、文献のレビューをとおして、報告・討論を中心に、これまでの研究の流れを把握し、論理的思考力の養成にも繋げて行きたい。またわが国の公的扶助に限定することなく、諸外国との制度間比較をとおして多角的な視野を獲得し、それらをもとに分析・研究できる知見を養うことを目指したい。

## ■ 社会福祉学特講Ⅱ【講義】

長尾 譲治

大学における社会福祉士養成教育並びに福祉士の職務について考えるとともに、関連する労働社会保険諸法令について考察する。かなり煩雑な法律実務に踏み込んだ内容となるので、受講にあたっては社会福祉士国家試験に合格しているか、少なくとも同等以上の知識を有していることが必要である。

## ■ 社会福祉学演習Ⅱ【演習】

長尾 譲治

大学における社会福祉士養成教育並びに福祉士の職務及び関連する労働社会保険諸法令に関する論文作成指導を行う。

## ■ 社会福祉学特講Ⅲ【講義】

桐原 宏行

本講義では、障害者の社会参加と自立を中心的課題として取り扱う。具体的には、まず基礎段階として障害に関する多角的・構造的な理解を深めるため、医学・心理学・教育学・社会学の各領域の文献等の資料をもとに幅広い知識の獲得を目指す。そして発展段階として、受講者の興味ある領域から中心的課題へとアプローチし、検討をすすめていく。

## ■ 社会福祉学演習Ⅲ【演習】

桐原 宏行

本演習では、障害者福祉、職業リハビリテーション等をテーマとした修士論文の作成指導を行う。具体的には、受講生の研究計画に沿って、修士論文のテーマに関係する先行研究の議論を通して問題意識を明確化し、研究目的・方法を決定し、研究経過のプレゼンテーションを通して、研究能力の向上を目指していく。

## ■ 社会福祉学特講Ⅳ【講義】

東條 光雅

本特講では、社会老年学あるいは老人福祉に関する社会福祉学の論文や文献を取り上げ、受講生の研究関心に沿わせながら内容の検討と理解を図っていく。特に、老人福祉の観点から、高齢者自身や家族あるいは地域住民における様々な意識や態度の研究、ならびに高齢者に対する処遇論としてのソーシャルワークの研究に焦点を当てている。

## ■ 社会福祉学演習Ⅳ【演習】

東條 光雅

本演習では、主として老人福祉に関する制度・政策・ソーシャルワークに関する事柄をテーマとした修士論文の作成を指導してゆく。その為に、研究テーマに関連する国内外の文献購読を通して、受講生の問題意識を明確化していきながら研究枠組みや研究方法論の検討を重ね、学術的に妥当性のある修士論文に纏め上げることを目指している。

## ■ 社会福祉学特講Ⅵ【講義】

荒井 浩道

この授業では、ソーシャルワークにおける支援法としてナラティブ・アプローチ、社会資源としてピアサポートについて理解を深める。また質的研究法として、テキストマイニングについて理解を深める。キーワードは、ナラティブ・アプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ピアサポート、質的研究、フォーカスグループインタビュー、テキストマイニングである。

## ■ 社会福祉学演習Ⅵ【演習】

荒井 浩道

この授業では、ソーシャルワークに関して、各自が設定した研究テーマに応じて、先行研究レビュー、調査研究法、論文構成法等の指導を行い、修士論文の作成を目指す。キーワードは、ナラティブ・アプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ピア・サポート、質的研究、フォーカス・グループ・インタビュー、テキストマイニングである。

## ■ 社会福祉学特講Ⅷ【講義】

佐藤 光正

この授業では、精神保健領域の福祉を中心に、広く相談支援とそれを支える地域の仕組みづくりについて専門的に理解を深める。特に精神障害者の地域移行に関して共生社会の観点から精神に障害のある人の地域生活支援の理解を深める。

## ■ 社会福祉学演習Ⅷ【演習】

佐藤 光正

この演習では、精神保健領域の福祉を中心に、広く相談支援とそれを支える地域の仕組みづくりについて専門的に理解を深める演習を行う。特に精神障害者の地域移行に関して共生社会の観点から精神に障害のある人の地域生活支援について専門的な演習を行う。

## ■ 社会福祉学特講Ⅷ【講義】

川上 富雄

現代日本における様々な社会問題の理解、今日的な福祉理念の理解などを踏まえ、地域福祉の推進方法について学ぶ。特に、縦割り制度的ニーズにとどまらず、横断的・俯瞰的視点から生活問題・社会問題を捉え直し、共助の活動（NPO、ボランティア、住民参加型、地区社協、小地域活動等）による解決の方法について考察する。

## ■ 社会福祉学演習Ⅷ【演習】

川上 富雄

先進地の地域福祉計画・地域福祉活動計画の分析や、先駆的・開拓的な地域福祉実践事例を学ぶと共に、任意に指定した地域における地域アセスメント・地域支援計画づくりを模擬的に行う。

第一章

第二章

仏教

国文

英米文

地理

歴史

社会

心理

経済

商

公法

私法

経営

診療放射線

リハビリテーション

第四章

## (2) 博士後期課程

### ● 目的

社会学専攻は、社会学と社会福祉学の両分野において、創造性豊かな優れた研究者として自立して研究活動を行うために、または、高度で専門的な知識を有して専門的な業務を行うために、高度な研究能力を有する人材を育成することを目的とする。

### ● 学位授与の方針

以下のすべての条件を満たした者に対して、博士（社会学）の学位を授与する。

1. 所定の年限以上在籍し、所定の単位を修得している。
2. 社会学と社会福祉学の両分野において、豊かな専門的知識および高度な研究技法を習得しているだけでなく、さらに高度な研究能力と創造性を身につけている。
3. 必要な研究指導を受けた上で、「2」で求められた能力の達成度を示した博士論文を提出し、審査に合格している。

### ● 教育課程の編成・実施方針

博士後期課程では、基本的には博士学位論文の指導を行うことを主眼としており、教育者や研究者の養成を目指している。

社会学と社会福祉学の両分野における豊かな専門知識および高度な研究技法を習得できるよう、修士課程での研究成果を土台として、さらに高度かつ独創的な研究の実施をサポートするために各専門分野別の特殊研究（講義）と研究指導をセットにして編成している。各専門分野別に指導教員の下で、緻密な教育・研究指導を行うため、博士後期課程受験の段階から指導教員を指定するシステムを採っている。

修士課程以上にTA制度、学術雑誌投稿、関係学会での発表等を通して、さらなる教育力・研究力の向上を目指す指導を行っている。

### ● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修しなければならない。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の講義4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義4単位および研究指導		

### ● 学位論文の審査基準

論文審査における基本的な審査項目は以下の通りである。

1. 研究主題の設定理由・目的の明確性
2. 研究の社会的意義・貢献性
3. 研究の独自性・独創性
4. 研究方法論の適切性・妥当性
5. 引用された文献・資料の十分性・適切性・妥当性
6. 結果考察の妥当性
7. 論旨の一貫性・連続性・論理性

博士の学位は、上記審査項目に関して高い評価が得られ、当該専門分野における独創性のある研究成果が学術論文の形式でまとめられており、今後、研究者として独立した研究活動ができる素養があると認められる場合に授与される。

### ● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 開講科目

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
文化社会学特殊研究 文化社会学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(社)	片岡 栄美	
産業社会学特殊研究 産業社会学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(社)	山田 信行	
地域社会学特殊研究 地域社会学研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(教育)	濱田 国佑	
家族社会学特殊研究 家族社会学研究指導	講義 研究指導	4	専任	松信 ひろみ	
情報社会学特殊研究Ⅰ 情報社会学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任・博(社会情報)	深澤 弘樹	(本年度休講：在外研究)
集合行動論特殊研究 集合行動論研究指導	講義 研究指導	4	専任・博(文)	李 妍焱	
社会福祉学特殊研究Ⅰ 社会福祉学研究指導Ⅰ	講義 研究指導	4	専任	伊藤 秀一	
社会福祉学特殊研究Ⅱ 社会福祉学研究指導Ⅱ	講義 研究指導	4	専任・社博	東條 光雅	
社会福祉学特殊研究Ⅲ 社会福祉学研究指導Ⅲ	講義 研究指導	4	専任	長尾 譲治	
社会福祉学特殊研究Ⅳ 社会福祉学研究指導Ⅳ	講義 研究指導	4	専任	桐原 宏行	
社会福祉学特殊研究Ⅴ 社会福祉学研究指導Ⅴ	講義 研究指導	4	専任・博(人間科学)	荒井 浩道	
社会福祉学特殊研究Ⅵ 社会福祉学研究指導Ⅵ	講義 研究指導	4	専任	佐藤 光正	

● 授業科目の概要

■ 文化社会学特殊研究【講義】  
■ 文化社会学研究指導【研究指導】

片岡 栄美

現代社会における文化や教育の社会学分野を扱う。文化資本、社会関係資本、教育や価値観等に関する実証的な研究を中心に、文化・教育と不平等の関係を探究する。内外の先行研究の文献を購読し、ディスカッションを行い、その後は各自の仮説に基づいて調査を実施して、データを作成し分析する。これらの過程を通じて、博士論文の執筆へとつなげていけるよう、研究指導を行う。

■ 産業社会学特殊研究【講義】  
■ 産業社会学研究指導【研究指導】

山田 信行

参加者が、修士課程における研究を発展させて産業・労働分野の専門研究者として自立できるように、研究活動のサポートを行う。具体的には、参加者が関心をもつテーマに関連した邦語・外国語文献をリストアップし、その網羅的な講読とそれをめぐる討論をインテンシブに行う。さらに、参加者が研究を進める過程で、データを入手するための調査を企画・実行してもらう。こうした訓練を通じて、参加者には最終的には博士論文の執筆を行ってもらう。

■ 地域社会学特殊研究【講義】  
■ 地域社会学研究指導【研究指導】

濱田 国佑

本授業では、修士過程で行った研究をさらに発展させ、専門性の高い、高い水準を持った博士論文を執筆するためのサポートを行う。具体的には以下のような内容を含んでいる。まず、国内および海外の文献を網羅的に収集した上で、ディスカッションを通じて、批判的に検討を加える。また、地域社会に関連した研究領域において、受講者が主体的に社会調査を企画・実施し、分析する一連の過程において、指導および助言を行う。さらには、学会発表や学術雑誌への投稿など、社会学の研究者として求められるスキルや専門性が身につけられるよう配慮しながら指導を行う。

■ 家族社会学特殊研究【講義】  
■ 家族社会学研究指導【研究指導】

松信 ひろみ

本演習では、修士論文を踏まえて、博士論文執筆のための研究へと発展を図り、その研究を博士論文へとつなげてゆくサポートを行う。家族社会学にかかわる内外の最新の研究はもちろん、古典的研究にも常に配慮し、討議を重ねた上で、理論枠組みを固め、その枠組みに沿った形できちんと段階的な手順を踏んだ実証調査が行えるよう指導する。最終的には、より専門性の高い博士論文の執筆を目指す。

■ 集合行動論特殊研究【講義】  
■ 集合行動論研究指導【研究指導】

李 妍焱

市民社会に関する研究の系譜を読みほどこき、多くの文献をサーベイし、討議を重ねていくことによって、東アジアの市民社会をどのように理解していけばいいのかについて考える。その上で受講者が自らの問題関心に沿って研究テーマを設定し、独自の見解を打ち出せるように専門的な研究を行い、高水準な博士論文が作成できるようにサポートする。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅰ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅰ【研究指導】

伊藤 秀一

公的扶助に関する研究テーマについて、先行研究の到達点をレビューし、それを踏まえて更なる問題意識の深化を図るため、取り上げる問題の限定、分析アプローチの明確化を目指す。研究目的とその意義の明確性、先行研究レビューの網羅性等に留意しつつ、従来の研究を十分に踏まえながらも、新たな視点・研究方法、考察が加えられたオリジナリティを備えた博士論文作成・執筆を目指すことにしたい。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅱ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅱ【研究指導】

東條 光雅

本授業では、主に高齢者福祉に関する研究テーマを扱っていく。初期の段階では受講生の研究テーマに関連した国内外の文献研究が基本であり、その上で実証的データを用いた研究調査を実施し、学位授与基準を満たす博士の学位論文を執筆することを目標にしている。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅲ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅲ【研究指導】

長尾 讓治

大学における社会福祉士養成教育並びに福祉士の職務及び関連する労働社会保険諸法令に関する論文作成指導を行う。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅳ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅳ【研究指導】

桐原 宏行

修士課程での成果を踏まえて、障害者福祉に関してさらに専門的な観点からの検討を行う。受講者の設定した研究テーマに関係する内外の先行研究を深く検討し、多様な研究方法の検討とともに計画的なプレゼンテーションにより議論を深め、より高度な水準の博士論文の執筆を目指す。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅴ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅴ【研究指導】

荒井 浩道

この授業では、ソーシャルワークに関して、各自が設定した研究テーマに応じて、先行研究レビュー、調査研究法、論文構成法等の指導を行い、博士論文の作成を目指す。キーワードは、ナラティブ・アプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ピア・サポート、質的研究、フォーカス・グループ・インタビュー、テキストマイニングである。

■ 社会福祉学特殊研究Ⅵ【講義】  
■ 社会福祉学研究指導Ⅵ【研究指導】

佐藤 光正

この講義は、学位論文作成のための研究指導を目的にしている。具体的な内容については学生の研究関心に合わせて行う。主に精神保健領域の権利擁護を中心に、地域生活支援としての相談支援とそれを支える地域生活支援についてより専門的な指導を行う。

第一章

第一章

仏教

国文

英文文

地理

歴史

社会

心理

経済

商

公法

私法

経営

診療放射線

リハビリテーション

第四章